



かぞく



19



ル^るン^ん
ル^るン^ん
ル^るン^ん

いえの
しごとには、どんな
ものが
ありますか。

いえの
しごとは
たいへん
そうなの
に、
おかあさんは「ル^るン^ん
ル^るン^ん
ル^るン^ん」。
どうして
だろう。



ぼく



「ねえ、おかあさん。まいにち、たくさんの
せんたくを して たいへんじゃないの。」
「わたしは、とつても ルンルンよ。」

きれいに なると 気もちが いいわ。」

おかあさんは、にこにこしながら
ら ぼくに いったんだ。

ゆうがたに なると、

おかあさんは、ばんごはんの

したく。

「ただいま。」

と、げんかんから おとうさんの いえ。

おとうさんは、しごとから かえると すぐに
手^てを あらいに いったよ。

ぼくは、おかあさんに ないしよ、

おとうとたちと いっしょに、とりこんで あった
せんたくものを たたむ ことに したんだ。

だけど、たたんでも たたんでも、せんたくもの

の山やまは なかなか

なくならない。

おとうとたちは、はんぶん

あそんで いる かんじ。

「ふう。」

たたんで いる

とちゅう、おとうさんが

だいどいろで、

ばんごいはんの したくを





てつだつて いるのが、
見^みえたんだ。

しばらくして、やっぴ、

せたくものもの ^{やま}ヨも、やっぴの

一^{いち}まいになつた ^{じき}じき、

「ごはんよ。」

と、おかあさんの ^いいえ。

「やったあ。」

ごはんを たべながら、

おかあさんと おとうさんに、ぼくたちで

せんとくものを たたんだ はなしを したよ。

すると、ふたりとも

「ありがとう、ルンルンルン。」

だつて。

おとうとたちと

ふとんに

入^{はい}った。

やがて、ガチャ

ガチャと

いう

音^{おと}が

きこえて

きた。

「あっ、おせらを あらって いる。いえの
しごとって、いろいろ あるんだな。」

とおもって いる うちに、いつのまにか
すや、すや、すや、すや、すや、すや。

つぎの 日ひの あさ、
たんすの 中なかから じぶんが
たたんだ ふくを えらんで、
きて みたよ。



「わあ、いいにおい。」

すると、なんだかぼくも、「ルンルンルン」と

いうきぶんになったのさ。
ルンルンルン。ルンルンルン。

●やぐ・へんしゅついいんかい ●え・ニーヤ・アキ

かんがえて みよう

じぶんが たたんだ ふくを ききて、
ル^るンル^るンル^るンと いう きづんに
なった 「ぼく」は、どんな ことを
おもって いるだろう。



みつめよう・いかそう

いえで、どんな おてつだいを して
いるかな。おてつだいを して、どんな
ことを おもつかない。

